



開成町赤十字奉仕団



発足10周年記念誌



目次



■委員長あいさつ	01
■祝辞	02
■活動内容	05
■奉仕団のあゆみ	09
■寄稿	12

開成町赤十字奉仕団発足 10 周年を迎えて



開成町赤十字奉仕団
委員長 村本 安彦

開成町赤十字奉仕団は、初代委員長の藤本行和氏が平成18年に18名の有志を集め発足し本年度で10周年を迎えました。これまで活動を続けてこられましたのは、ひとえに地域の皆様、関係諸団体の皆様のご高配の賜物と団員一同より深く感謝申し上げます。

弊団は赤十字のめざす人道を広めることを大義とし、赤十字の活動を支えるボランティア団体として、開成町、開成町社会福祉協議会主催のイベントに参加し、救護活動や講習のお手伝いを通じて、地域のみなさまに貢献させていただいております。団員の年齢層は厚く、上は70歳代のメンバーまで積極的に活動に参加しております。

奉仕団の救護技術や装備は救急隊に遠くおよびませんが、重症の要救護者をいち早く発見し応急手当を遅滞なく済ませ、駆けつけた救急隊員に状況を正確に伝え引き継ぐという重要な役割を担っております。人命にかかわるこの役割を果たす為に私たち奉仕団員は専門家の指導を受け、現場経験を積み、技術向上に努めております。また、軽傷や気分のすぐれない方へのケアや、イベント会場の案内も、全て奉仕活動の一部と心得、安全安心な環境づくりに努めております。

この活動は決して弊団単独で進められるものではなく、開成町職員の方々や先輩にあたる小田原市赤十字奉仕団のみなさまと力を合わせることで成り立っております。これまでの10年間は活動の継続に注力して参りましたが、これからの10年は奉仕団の活動を近隣の地区にも広めて行くことを目標に加え、まい進いたします。

奉仕の精神を原動力として仲間を募り活動を広げ、これからも地域の皆様に貢献して参りたいと存じます。

開成町赤十字奉仕団の軌跡を記念誌としてまとめましたので、ご高覧いただけましたら幸いに存じます。

開成町赤十字奉仕団発足 10 周年を祝して



開成町赤十字奉仕団 分区長
開成町長 府川 裕一様

開成町赤十字奉仕団が発足 10 周年を迎えられましたことを、心よりお喜び申し上げます。

これまで、開成町赤十字奉仕団が活躍されてこられたのは、団員の方々を初め、関係者各位のご努力によるものであり、深く敬意を表するとともに、町事業に対する多大なご協力に対して、あらためて厚く御礼を申し上げます。

さて、開成町赤十字奉仕団は、初代委員長の藤本様をはじめ、有志の方々のご尽力により、平成 18 年 7 月に結成されました。

赤十字奉仕団の規定準則には、その目的として、「すべての人々のしあわせをねがい、明るい住みよい社会をきずきあげていくため、陰の力となって、身近な仕事に従事するものとする。」とあります。

その言葉のとおり、赤十字奉仕団の皆さんは、日ごろから、あじさいまつりや阿波おどり、あしがら花火大会、また小学校の運動会などの町のイベントにおいて、救護活動を行うとともに、町の防災訓練では、町民に実践的な救護法の講習を行うなど、開成町になくてはならない活動を行っておられます。

町では、第五次開成町総合計画において、「町民主体の自治と協働を進めるまち」を政策の柱の一つとしております。その基本となる自治会活動の活性化はもとより、赤十字奉仕団のように町民自ら主役となって、自らの発意により活動を行うことも極めて大切であり、町としても支援をしてまいりたいと考えております。

さて、近年、大規模な災害が続いております。

平成 23 年 3 月の東日本大震災を始め、昨年の熊本地震における被害はまだまだ記憶に新しいところであります。

開成町としましても、災害に強い町づくりを進めるべく、体制整備を行っておりますが、現在取り組んでいる新庁舎建設は、その核となるものであります。災害時に、総合防災拠点としての機能を確実に維持できる新庁舎を構築してまいりたいと考えております。

一方で、ハード整備だけではなく、災害時に確実に対応できる組織、体制づくりも重要であります。各自主防災会の活動に対して、町としてしっかりと支援を行ってまいりますが、災害時に自主的に活動していただく赤十字奉仕団との連携も欠くことができないものであります。

今後も町と連携して、地域における災害救護、保健衛生等に関する奉仕活動にご尽力いただくことを期待したいと思います。

最後に、開成町赤十字奉仕団のますますのご発展と、団員の皆様方のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げて、お祝いの言葉といたします。



日本赤十字社神奈川県支部
事務局長 富田 輝司 様

開成町赤十字奉仕団が、発足10周年の嘉節を迎えられたことに、心よりお慶びを申し上げます。

設立は、赤十字救急法講習会を住民の方々が受講したことから、地域の安全、安心、防災町づくりのために賛同した方々で結成されたと聞いております。

このように、今までご尽力されました団員の方々、また奉仕団を支えてきて下さった開成町分区の皆さまに、深く感謝を申し上げます。

さて、貴奉仕団は、日赤開成町分区と細やかな連携を保ち、10年間にわたり行政と共に町民サービスの一役を担い、町民の方々の陰となり日向となり活動を展開されてきました。

中でも開成あじさい祭りをはじめ様々なイベントで救護活動を実施、継続されています。

また、救急法の講習会も毎年実施され、地域住民の人命を守る活動の普及をされています。

このように、地域において安全、安心、防災のまちづくりに貢献されていることは、赤十字の理念である「人道」の具現化のために地道ではありますが、大変すばらしい活動であります。

これからもアンリー・デュナンの心で、20年30年と活躍されることを願い、地域に「人道」の灯を照らしより良い社会を築いていただきますよう、祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。



開成町社会福祉協議会
会長 小澤 清司 様

開成町赤十字奉仕団が発足 10 周年の節目を迎えられましたことに、心よりお喜び申し上げます。平成 18 年 7 月発足以来、今日に至るまで、初代藤本委員長をはじめ関係者各位のご尽力と、たゆまぬ情熱を持って取り組んでこられました開成町赤十字奉仕団がこの様に活躍されることに深く敬意を表すとともに、本会の推進する地域福祉活動へのご理解ご協力を賜り、改めて厚く感謝申し上げます。

さて、本会は、ボランティアセンター機能を有しており、その機能の一つとして「ボランティア講座」を開催しております。救急法基礎講習等の講習会開催の折には、講師派遣や日本赤十字社神奈川県支部との調整等、貴団体の多大な協力を賜り、多くのボランティアを養成することができております。こうした取り組みは、赤十字奉仕団員の信条に記された活動の一つだと思えます。輝をもった開成町のさらなる発展へと繋がると確信しております。

最近の社会の様子を見ていますと、「思いやり」「優しさ」「助け合い」「奉仕」といった、人と人をつなぐ「心」は何処にいったしまったのだろうと思うことが多いように感じます。本当の豊かさとは、ものが豊富にあることの豊かさではなく、助け合いや、人への思いやりの深さだと言われます。また、その豊かさは、社会が疲弊したり、不安に陥ったり、困難に直面したときに分かるとも言われます。その様な中、未曾有の災害と言われた東日本大震災は、日本だけでなく、世界中を震撼させる大きな出来事でした。別の見方をすれば、正に私たちの「心の豊かさ」が試される時であったと思えます。大震災を契機に「絆」の大切さが注目されました。

開成町赤十字奉仕団の皆様方の活動は、正に人と人をつなぐ「絆」そのものではないかと感じます。日頃の活動は違って、皆様方の心には共通するものを感じます。心の豊かさは、一朝一夕に育まれるものではありませんし、心と心を結びながら長い時間を掛けて取り組む中でしか醸成されません。

開成町赤十字奉仕団が一つの節目としての創立 10 周年を迎えられましたが、「人と人を繋ぐ心」をより大きく膨らませ、共に助け合う明るい社会を作るためにも、次の節目に向けて、より一層の活動の充実を期待致します。

結びに、開成町赤十字奉仕団の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝・ご活躍を祈念しましてお祝いのあいさつといたします。

開成町赤十字奉仕団のあゆみ

平成18年7月15日

結成式

救急法指導員の藤本氏と有志
18名が、町のご支援のもと
開成町赤十字奉仕団を結成



露木 前町長(左)と 藤本 初代委員長(右)



奉仕団メンバー

平成19年6月16日

あじさいまつり救護支援活動
会場見まわり中の奉仕団員



■ 平成20年3月1日、2日
 ■ 赤十字救急法救急員養成講習
 ■ (小田原市赤十字奉仕団と協同)



■ 平成20年
 ■ 町主催イベントの救護支援活動



小田原市赤十字
 奉仕団の山崎氏
 (救急法指導員)



平成26年5月25日

総会



府川町長と奉仕団員

平成27年2月1日

町制施行60周年記念表彰
奉仕団が救護活動で町から
表彰頂きました



平成28年7月31日

南足柄市に新設された日赤神奈川
県支部災害救援物資倉庫の見学



開成町保険健康課 田中様と奉仕団員



平成28年10月2日

スポレクフェスティバル



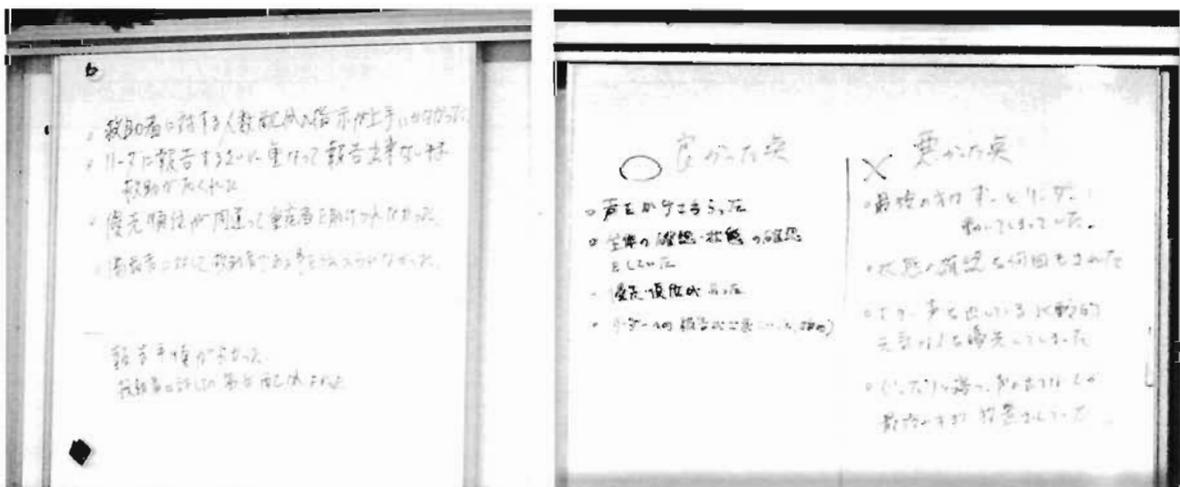
平成28年度 団員数21名

開成町赤十字奉仕団の活動内容

《 恒例の年間イベント 》

5月	-----	総会
6月	-----	開成あじさい祭り
8月	-----	救命救急基礎講座 あしがら花火大会
9月	-----	防災訓練 開成阿波おどり 町内小学校運動会
10月	-----	スポレクフェスティバル
12月	-----	町内一周駅伝大会

《 赤十字救急法救急員養成講習会の板書 》



このセッションは災害発生現場に居合わせた大勢の人を統率する訓練です。安全の確保、負傷者の救護、危険地帯からの避難を短時間で進めるために統率者の采配が重要となります。

<< 救護支援活動の記録 >>

行事名「開城南小運動会」

日時 2015.5.10 10:15

天候 晴

参加者 〇〇〇〇

救入者 〇〇〇〇

特記事項

10:00 集合

15:00 解散

救護記録

11:15 女性 (〇〇〇〇) 2才

血圧 10/50

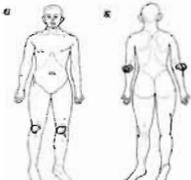
脈 72

体温 35.9℃

脈 〇〇

〇〇〇〇

救護活動記録票		管理No.
記入日	2015年10月5日	記載者名
活動名	かいせいスポレクフェスティバル	
発生日時	2015年10月5日 9時40分頃	発生場所
傷病者	〇〇〇〇	性別
傷病概要	両足 両肘	◎・女



現場では手書きのメモを取り、後日、下記の記録にまとめます。
 メモは救急隊に引き継ぐ際にも重要となります。

〇〇〇〇 (29才)

住所 〇〇〇〇

TEL 〇〇〇〇

14:20分

飲酒と暑さで気分が悪く
 吐いたため、救急隊要請。
 暑い車内にはおきかず、
 救急車で運ばれてもらい
 治療という事になった。

あじさい祭り 6/4~6/12

	年齢・性別	状況	対応
6月4日	75歳男性	飲酒歩行困難	介助
	女児	すり傷	消毒、バンドエイド
	女児	虫さされ	消毒、バンドエイド
	男児	かざ車の針金が刺さった	消毒、バンドエイド
6月5日	83歳女性	雨による路面状況悪化で転倒顔面打撲	冷却剤
	3歳男児	ベビーカーごと転倒、石の角で額切傷4cm	救急車要請
6月11日	70~90歳男性	駐車場の縁石で転倒、顔面打撲、鼻血、右膝擦り傷	家族の方が救急車を要請した為、到着時には既に救急隊の対応が進んでいた。役場の保健士が救急隊の応急処置に協力
6月12日	70歳代女性	ふらつき、低血圧(45~60)	休憩、補水、保健士による状況監視
	70~90歳男性	歩行困難	車までの移動介助(車いす)
	40歳代女性	体調不調	血圧66~98、脈拍80回、様子から心因性の不調と判断し対応終了
	5歳ぐらいの女児	擦り傷	消毒、バンドエイド

花火大会 8/27

要救護者なし、雨天の為集合時刻を18:30にシフトし、花火のみ実施

防災訓練 9/4

三角巾の使用方法を奉仕団員から解説

阿波踊り 9/10

年齢・性別	状況	対応
40代男性	津太鼓奏者、手のまめが破裂し出血。	保健士による応急処置後太鼓演奏続行

開成小運動会 9/25

炎天の為10名以上が保健室を訪れ休憩したが休憩後回復

年齢・性別	状況	対応
79歳男性	飲酒と暑さで気分が悪くなった。	家族の希望で救急車を要請 救急隊員による血圧測定後、問題無しと判断、病院への搬送はキャンセルした。

開城南小運動会 9/25

炎天の為10名以上が保健室を訪れ休憩したが休憩後回復

スポレク 10/2

年齢・性別	状況	対応
	指の皮を石ではさみ軽い血豆	冷却スプレーで冷却
	野球で擦りむき	チーム内で対処

《 奉仕団の装備 》



AED

心肺停止の状態が4分を超えると蘇生の可能性が急激に低下します。奉仕団員は、AED(小田急電鉄事業団様寄贈)を活動時に携行し、要救護者の救命に備えます。

無線機

巡回者は要救護者を発見した時に、無線機で直ちに全メンバーに状況を知らせ、本部は全メンバーに必要な指示を出します。マラソン大会など、広域で開催するイベントでは無線機が命綱となる場合もあります。

応急手当用品

洗浄用蒸留水、滅菌ガーゼ、包帯、冷却剤、使い捨て手袋、三角巾など応急手当に必要なものを常備しています。

開成町赤十字奉仕団発足 10 周年に寄せて



開成町赤十字奉仕団
初代委員長 藤本 行和

平成16年に小田原市から開成町に転居させていただきました。箱根町、小田原市と移り住んできましたが、地元のために奉仕活動をするをモットーに箱根町救助赤十字奉仕団そして小田原市赤十字奉仕団に入団させていただき、赤十字のいろはを学びました。

しかしながら、開成町は赤十字奉仕団未結成分区でした。「それならば、開成町で奉仕団を結成しよう。」と決意した訳であります。

見ず知らずの土地に引っ越し、いきなり「赤十字奉仕団結成したい」と声を上げたところで奉仕活動と一緒にしてくれる仲間がいなければ、結成はできません。そこでまず、町内で救急法講習会を開催して、仲間づくりを創めることを最優先としました。

「日本赤十字社の救急法指導員をしております。このたび開成町に引っ越しして参りまして、ぜひ地元で救急法講習会を開催したいのですが・・・」面識もない唐突な話に対して「それは良いご提案ですね。早速開催に向けて検討しましょう。」転居してきたばかりの私の話を聞いてくれた当時の赤十字担当者の石井さんには本当に感謝しております。

翌年に救急法講習会を開催。その受講者の方18名を口説き、平成18年7月15日に結成式を行いました。

奉仕団活動がスタートすると社会福祉法人開成町社会福祉協議会様からは活動に対する助成金、財団法人小田急電鉄事業団（現在の公益財団法人小田急財団）様からは自動体外式除細動器（AED）の寄贈、そして町民の皆様からご賛同いただいている社費によるお力添えのおかげで、あじさい祭り等の臨時救護ボランティアを推進することができました。

また災害発生時を想定した分区との連携訓練や各地区で開催している防災訓練に参加させていただき、「顔の見える関係作り」にも邁進して参りました。

奉仕団活動を継続することは昨今休団している地区分区もある中で本当に大変なことであります。活動が継続しているのは後任の委員長様はじめ皆様のご支援があつてのことと心より御礼申し上げます。

「学問、知識を開発し、世のため成すべき努めを成さしめる。」これは町名の由来でもある中国のことわざ「開物成務」、そして人道・博愛の精神に基づいた赤十字の基本原則を大切に様々な活動を展開していきたいと結成式で語ったことを肝に銘じてこれからも陰の力となって人々に奉仕していく団であり続けることに期待しています。

奉仕団員の信条

- 1、すべての人々のしあわせをねがい、
陰の力となって人々に奉仕する。
- 1、常に工夫し人々のために、よりよい
奉仕ができるよう努める。
- 1、身近な奉仕をひろげ、すべての人々と
手をつないで、世界の平和につくす。

結成10周年記念誌

発行 平成29年3月

開成町赤十字奉仕団

問合せ先：開成町 保健福祉部 保険健康課 0465-84-0327